学会報告

第10回発表集会印象記

高岡市保健センター　熊谷　武夫

第10回富山県農村医学研究および健康管理活動発表集会は去る2月13日13時35分から厚生連高岡病院地域医療研修室で開催されました。

会長の越山健二先生は，御挨拶の中で「これからの農村医学の課題と展望」のディスカッションと高齢化社会とホスピスの討論を通じて農医研の蘇りを期待していると話されました。

先ず高岡病院の加藤院長先生が座長席につかれて，4題の会員発表がありました。

第1席は，厚生連滑川検診センター・保井さんの「二次検診受診率のアップを考える」の発表でした。

面接による実態調査の結果から，検診後の健康相談が精検受診率の向上に役立つと結ばれました。

富山市民病院の石田院長先生は，一次検診後の経過の長い人ほど，精密検査の依頼書が紛失してしまうことが多いと話され，また滑川病院の小川院長先生は，二次検診を受けない人のなかには，次年度の検診の場を精検の機会と誤解している人もいると発言されました。

癌検診においては，精検受診率の向上が大切であり，高岡市の癌検診のそれは，受診者の増加に反比例して下がる傾向にありますので，反省させられました。

第2席は高岡検診センターの森内さんが，「乳癌の自己検診法の実施状況」を報告されました。アンケートの集計をもとに，年配者ほど自己検診法を知っており，検診の受診率も年配者の方が高いということでした。

厚生連の大浦さんは，男性がこの自己検診法に関心を持つべきであると発言されました。

乳癌の対策は，このところ重点健康教育の一つとして取り上げられており，県内の市町村でもこの「乳癌自己検診法」の普及に努めているところです。

この2題は共に，癌検診の現場においては，たいへん重要な問題であり，農協組合員を含む国保加入者を対象に検診事業を行なっている私にとっては示唆に富んだ発表でした。

第3席は「当科におけるC型肝炎の実態」で滑川病院の小川先生がお話になりました。

先生はHCV抗体陽性で肝機能に異常を示した者について言及され，肝生検で確認された55名のうち37名（67.3%）が慢性活動性肝炎であり，そのうちの25名にインターフェロン療法を施行したと報告されました。

石田先生はアルコール性肝障害の中にも，C型肝炎があると指摘されました。

第4席の発表は日本健康倶楽部の井上さんで，「県東部の一農村地区の飲酒実態について」を報告されました。

演者は宇奈月町の住民検診で72名の町民にアンケートを実施し，43名が毎日飲酒するが1日の飲酒量は1.6合と少なく，γ−GTPの値に関連が見られなかったといわれました。

これについて越山・小川・石田・加藤の諸先生が外国との比較，機会飲酒の人の把握，常習飲酒者ほどその量を控え目に申告すること，一回の飲酒量の確認の必要性をそれぞれ指摘されました。

14時40分からは高岡病院の豊田副院長先生が座長をされて，３題の会員発表が続きました。

第５席では福野町の荒田さんが「合鴨による水田雑草除去法の実際と課題」について発表されました。

演者は，昭和55年頃から農薬を使用しない除草の方法を種々模索して，昭和60年から中古漁網を使用した合鴨除草実験を開始，ついにその合鴨除草法を確立されて，1 ha の水田の除草に成功されました。

豊富に図とスライドを使用した発表は会員に感銘を与え，越山先生は「非常にユニークな方法であり，ぜひ時間をかけて経験を聞きたい」と発言されました。

第６席は上市農業改良普及所の松村さんが，「主穀作作業の粉塵実態」について話されました。

水稲の播種作業，水稲の乾燥作業，大豆の脱穀作業において粉塵の付着状況と作業従事者の聞き取り調査の結果，作業装備や作業衣などで防塵対策が必要であると報告されました。なお主穀作（しゅこくさく）農家とは稲作農家のことで，水稲のほかに大麦・大豆を作っているそうです。

第７席の鋤田先生は第９回の寺西先生の発表に続いて「県内の空中花粉の飛散状況」を報告されました。

1992年は杉の花粉の飛散は少なかったそうです。座長の豊田先生は花粉症の発生は杉の花粉の飛散状況と相関関係があるとされ，1993年も少ないと予想されました。

15時20分から小川先生を座長として，ディスカッション「これからの農村医学の課題と展望」が始まりました。

まず越山先生が「日本農村医学会の40年目にあたって原点に立ち返って見直したい」と話され，富山市の西能正一郎先生が，昭和30年に当時の農協高岡病院に着任されて，先ず「農婦（夫）症」の実態調査から始められ，御専門の立場から筋膜性腰痛症が多かったことをお話になりました。

ところがその後の富山県における新産業都市構想の進展などによって，昭和45年に先生がふたたび調査をされた際には，既に農業は片手間仕事となり，農民の実態が変わってしまっていたということです。

先生は，これからは農薬の問題，農作業の改善，農婦の健康管理，高齢者問題が大きなテーマとなり，社会医学的対応が必要となると結論されました。

越山先生は西能先生の意見に同感であり，自然とともに汗をかきながら生活することの大切さ，農業を見直して蘇らせることの重要性を強調されました。

厚生連の大浦さんは，農医研の最近のテーマとしては，農業災害(農機具災害)，農薬中毒が取り上げられており，農業の大規模化によって，これらの規模も大きくなっていると発言されました。

中央会の藤畑さんは，現在の農協の直面する問題は，１．高齢者，２．農薬，３．食の安全性であり，農村医学との連帯のもとにこれらを解決したいと話されました。

小川先生は農村医学は農村の環境を抜きには考えられず，会員全員で考えて行きたいと結ばれました。

16時03分からは石田先生が座長をされて，高齢者問題についての発表が続きました。

第８席高岡病院の前田さんは，「遺族アンケートを通じてターミナルケアを考える」を発表され，最後まで在宅で看とることの難しさを感じたと話されました。

これに関して９席の舘野先生が指定発言をされました。

県立中央病院では，昨年６月に５年間の準備期間を経て，15床の PCU（緩和ケア）病棟を開設され，癌の末期患者を収容・治療しておられます。

癌の告知に関する問題，ターミナルケアの

定義についても言及され，この病棟は決して特殊な場所ではないと説明されました。

この御発言に対して宗教者のかかわり，痛みの対策，死後の世界の理解など多くの討論がありました。

10席，11席はいずれも高齢者を対象にした活動報告で，ＪＡ高岡の荒木保健婦さんと上市改良普及所の松村さんが，報告されました。

荒木さんは，ＪＡ高岡の高齢者生活充実活動と高齢者生活援助活動について報告され，「ふれ愛保健セミナー」の成果についても述べられました。

舘野先生は，高齢の健康者をボランティア活動に参加させることが重要であると言われ，座長の石田先生も「今後は高齢者が高齢者を看る時代だ」と発言されました。

松村さんは，滑川市西加積地区の「高齢者能力活用促進事業」について，ここでは「一芸・一品運動」の展開により，高齢者の能力を最大限に活用することを目指していると報告されました。

また上市農業改良普及所では，緑黄色野菜として「アマランサス」という植物を栽培してその普及をはかっていると紹介されました。

17時02分，越山先生が「本日の集会は，夢と希望のあるもので，故豊田文一先生も陰から喜んでおられることと思う。」とお話なさって，集会は終わりました。

私は今回も，農村の保健・医療の第一線を担当されている会員の皆様の，熱心な研究発表を拝聴しまして，たいへん感動しました。

会場では，県厚生連・高岡病院・富山医薬大をはじめ県下各地から参加された多数の会員の方々が，熱心に討論しておられました。

高岡市においても，地域総合福祉推進事業がすすめられており，その中でも高齢者の生き甲斐や介護についての諸問題の解決が急がれております。本日の後半の演題もたいへん興味深く拝聴しました。

本集会が今後ますます発展されますことをお祈りしまして稿を終わります。

第10回集会をお世話下さいました厚生連の事務局の御苦労に深謝します。

1993-02-15